

◎策定の趣旨

松原市では、すべての人が健やかでこころ豊かに生活できる活力ある社会を目指すために「健康まつばら21」を平成17年3月に策定し、平成26年3月末まで取り組んできました。さらなる健康づくりを目指し、第2次計画は、市民一人ひとりが健康についての正しい知識を持ち、人生の各ライフステージにおいて主体的に健康づくりに取り組むことを支援することで、健康寿命の延伸の実現を目指すものです。

◎統計データや市民アンケート結果からみえる松原市民の姿

- 大阪府に比べて「循環器系の疾患」「心疾患」「脳血管疾患」「慢性閉塞性肺疾患」が高いなど、生活習慣病から重症化している。
- 男女ともに20歳代の若年層は、他の年代に比べ健康づくりへの関心が低い。
- 男性の若年層は肥満者の割合が高く、食生活、運動習慣、こころの健康等に課題がみられた。
- 全年代を通じてストレスを感じている人が多く、アルコールやたばこによりストレスを解消している人もみられた。
- 地域とのつながりが強い人ほど、健康観が高いが、地域のつながりが高い年齢層は50歳以上でこの年代はストレスを感じている人が低い。一方、子育て世代は育児のストレスを感じる人の割合が高い。

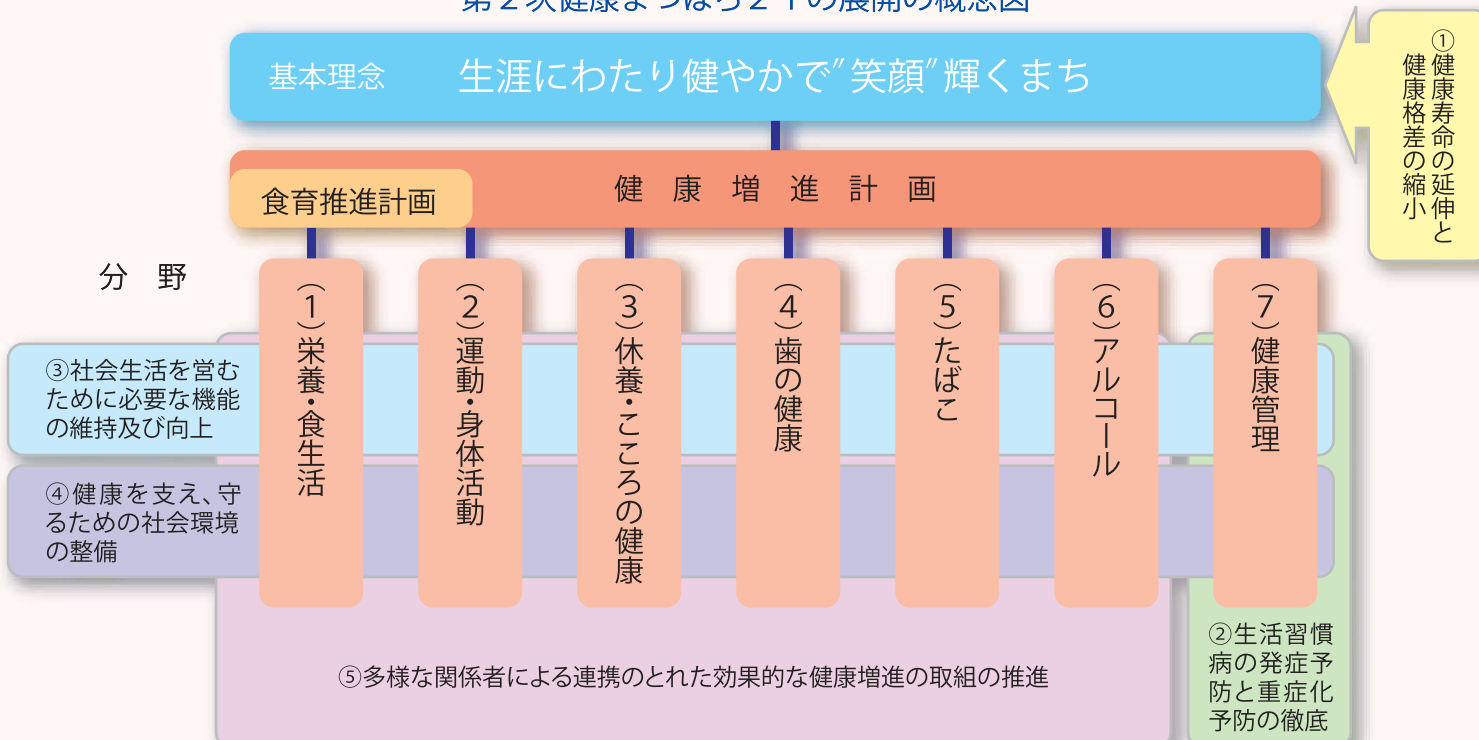
◎計画の展開

- この計画は平成26年度から平成35年度の10年間を計画期間とします。

重要ポイント

- 1 子どもの頃からの健康づくりへの取組みの推進
- 2 生活習慣病の重症化予防
- 3 地域社会が一体となった健康づくりへの取組み

第2次健康まつばら21の展開の概念図



※①から⑤は健康日本21(第2次)の「国民の健康の増進の推進に関する基本的な方向」を示しています。